

# 冠状動脈血栓症の死因診断への組織透明化技術の応用

## 研究協力のお願い

この研究は学校法人日本医科大学中央倫理委員会の承認および研究機関の長（学長：弦間昭彦）の許可のもと、倫理指針および法令を遵守して行います。研究目的や研究方法は以下のとおりです。直接のご同意はいただかずに、この掲示によるお知らせをもって実施します。

皆様方には研究の趣旨をご理解いただき、この研究へのご協力を願います。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問などは下記の問い合わせ先へご連絡ください。

## 1. 研究の対象

実施許可日から 2029 年 12 月 31 日までに日本医科大学法医学教室または東京都監察医務院で法医解剖を受けられた故人の中で、冠状動脈の粥状硬化や血栓形成が疑われる、金属製ステントが留置されている、または、虚血性心疾患が疑われる方。

## 2. 研究の目的

この研究の目的は、組織透明化技術(CUBIC 法)を冠状動脈に適用し、冠状動脈壁を透明化し、血管を切断することなく、冠状動脈の内腔を肉眼的に透見可能とする技術を構築することです。さらに、確立した透明化法を虚血性心疾患が疑われる症例に応用し、血栓の検出感度などを調べるとともに、従来の病理組織学的検査と作業効率や診断精度について比較し、新たな死因診断法の確立を目指します。

## 3. 研究の方法

この研究は日本医科大学で実施する研究で、研究責任者および研究事務局は日本医科大学法医学教室 朝倉久美子です。他の参加研究機関は東京都監察医務院（研究責任者：朝倉久美子）です。

実施許可日から 2029 年 12 月 31 日までに日本医科大学法医学教室または東京都監察医務院にて、法医解剖を受けられた方の冠状動脈に透明化処理を行い、肉眼的に血管内腔を観察し、血栓の有無を調べます。その後、従来の病理組織学的標本作製法で標本を作製し、肉眼的観察の感度・特異度を算出します。また、従来法との作業効率などを比較し、診断法としての有用性を検討します。

研究実施期間は実施許可日から 2030 年 3 月 31 日までです。

この研究は、外部機関との利益相反はありません。

## 4. 研究に用いる試料・情報

この研究は、法医解剖を受けられた故人の以下の試料・情報を用いて行われます。

試料：法医解剖で採取した冠状動脈

情報：年齢、性別、病歴、処方薬、死亡状況、死因、解剖所見

利用を開始する予定日：実施許可日

提供を開始する予定日：実施許可日

情報の提供を行う機関：東京都監察医務院（院長：林紀乃）

情報の提供を受ける機関：日本医科大学（学長：弦間昭彦）

## 試料・情報の取得の方法：研究目的でない法医解剖の過程で取得

この研究に関する試料・情報は、個人が容易に特定できないように記号化した番号により管理されます。患者さんの個人情報が、個人が特定できる形で使用することはありません。

試料は、以下の場所に保管されます。

日本医科大学：法医学教室の施錠可能な保管庫

情報は、以下の施錠可能な場所に設置された、インターネットに接続されていないパスワード保護されたパソコン用に保管されます。

日本医科大学：法医学教室

また、ご遺族から、研究を継続されることについて同意の撤回がなされた場合は、個人情報は速やかに廃棄し、この研究に用いることはありません。なお、研究結果の報告、発表に関して、個人を特定される形では公表しません。

## 5. 問い合わせ先窓口

この研究に関するご質問などがありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の故人の個人情報および知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書および関連資料を閲覧することができます。

また、試料・情報が研究に用いられることについて、ご遺族の方にご了承いただけない場合には研究の対象としませんので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも故人、ご遺族に不利益が生じることはありません。

日本医科大学 法医学教室 朝倉久美子

〒270-1694 千葉県印西市鎌苅 1715

電話番号：0476-99-1838（代表） 内線：3966

メールアドレス：kumiko-asakura@nms.ac.jp